

サポート

No. 182

令和4年1月25日発行
県教育庁特別支援教育課指導班

令和3年度特別支援学校就労・職場定着促進事業 秋田県特別支援学校職業教育フェア

秋田県特別支援学校職業教育フェアは、県内の企業関係者等に特別支援学校の生徒や職業教育に対する理解促進を図ることを目的として、平成24年度より開催しています。今回は12月に県北、県央地区で開催した職業教育フェアの様子を紹介します。（10月に開催した県南地区については、サポートNo. 180に掲載しています。）

県北地区（主管校：能代支援学校）

12月16日（木）能代支援学校を会場に開催しました。今年度は、第10回秋田県特別支援学校技能競技会「錬成会」と県北地区各校の紹介パネル・作業学習製品展示を行いました。併せて開催した「フェア見学会」には報道1社と、地域企業・関係機関から13名の参加がありました。

錬成会の3競技（ビルクリーニング、喫茶サービス、縫製）には、県北地区4校から15名がエントリーしました。ビルクリーニング競技での機敏で的確な作業、喫茶サービス競技での接客技術や対応力、縫製競技の繊細な作業や集中力など、緊張感をもって真剣に競技に取り組む選手の姿に、見学した企業の方々も感心されていました。

講評では、ビルクリーニング競技の審査員長「厚生ビル管理株式会社」柏谷 錦一 様から「全員の基礎がしっかりしていた。」「コロナ禍で掃除の手順も変化した。感染予防の観点が大事。」、喫茶サービス競技の審査員長「政府登録国際観光レストラン プラザ都」工藤 勝哉 様から「年々レベルが向上してきている。」「笑顔や少しの気遣いが結果を分けた。」「『はい』という返事は非常に大事。」、縫製競技の審査員長「有限会社 モードマサミ」清水 麻香 様から「縫いが丁寧で感心した。」「社会に出て縫製の仕事をを選ぶ場合にはスピードが求められる。早く丁寧に縫えるように繰り返し練習してほしい。」とお話がありました。技術面の評価だけでなく、今後の生活に結び付く具体的な助言をいただきました。

職業教育フェアを通して、生徒が日頃の成果を発揮して活躍するとともに、特別支援学校の取組を地域の企業等に知っていただく有意義な機会となりました。（能代支援学校 教諭 由利 和也）



ビルクリーニング競技



喫茶サービス競技

県央地区（主管校：支援学校天王みどり学園）

12月8日（水）秋田県総合教育センター体育館を会場に開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染対策から、招待者を自治体の雇用や実習の窓口となる総務課とハローワークの職員に限定し、7名に参加いただきました。

錬成会では、ゆり支援学校と栗田支援学校、そして天王みどり学園の選手が競い合いました。喫茶サービス競技は、感染症対策のためフェイスシールドやアクリル板の使用、余裕をもったテーブル間隔で実施しました。ビルクリーニング競技は、時間短縮と県大会や全国大会に準ずる観点から2名同時実施としました。競技後に行われた各競技の審査員長からのワンポイントレッスンは、動作や用具について実演を交えて行われ、分かりやすく今後の練習にすぐに生かすことができるものでした。

講評では、ビルクリーニング競技の審査員長「株式会社エイビック」高橋 守 様から「全体のレベルが上がっている。メリハリのある動きを心掛けると、全体がスムーズになり、さらにレベルアップができる。」、喫茶サービス競技の審査員長「秋田コアビジネスカレッジ」菊池 仁 様から「お客様の安心・安全は皆さんにとっての安心・安全でもある。そのためには消毒以外にも動きやすくするために、どのような持ち方がいいかなど考えることが大切である。お客様全体を見るように、広い視野で練習するとさらによくなる。」とお話がありました。

昨年度に引き続き、制限のある状況下でしたが、生徒が緊張感のある場で日頃の学習の成果を発揮でき、有意義な機会となりました。来場者からは、「生徒の可能性を感じた」「感動した」などの声を聞くことができました。（支援学校天王みどり学園 教諭 渋谷 純一）



喫茶サービス競技



ビルクリーニング競技
～ワンポイントレッスン～

特別支援学校 特色ある取組の紹介

比内支援学校かづの校 障害理解授業の取組 ～合い言葉「き・こ・う」～

かづの校では交流及び共同学習の事前学習として、交流校児童生徒の発達段階を踏まえた内容で障害理解授業を実践しています。毎年行っている2校との交流を中心に本校の取組を紹介します。

鹿角市立尾去沢小学校と小学部Aさんが居住地校交流を実施しています。今年は左目の視力を失っているAさんのことを理解してもらうために、見えない・見えにくい状態の疑似体験を交えながら、目の不自由な人との関わり方の工夫について伝えました。実際の交流では、「Aさんは左目が見えないから、右側から話し掛けよう。」や「イラストカードはAさんの見えやすい高さで見せよう。」等、事前学習で学んだことを実践している様子が見られました。

小坂町立小坂中学校と中学部1年生がボッチャを通して学校間交流を実施しています。事前学習ではかづの校の紹介の後、初めての活動が苦手な生徒や言葉でのやりとりが難しい生徒への関わり方について視覚情報と演習を交えながら具体的に伝えました。実際の交流では、身振りを交えながらのアドバイスや、「いいね」「（上手いかななくても）大丈夫！」等と、互いに認め合う姿がたくさん見られました。交流後の感想発表において、「今日は事前の授業で学んだ『き（気付く）・こ（声を掛ける）・う（動く）』を意識して、実際に行うことができました。これからも『き・こ・う』を様々な場面において実践していきたいです。」と発表した生徒がいました。毎年取り組んでいる障害理解授業ですが、障害理解教育の推進のためには改めて一つ一つの授業の積み重ねが大切だということを実感しました。

今後も共生社会の実現や地域の障害理解教育の推進を目的に、地域の幼稚園・保育園・認定こども園、小・中学校、高等学校等を対象に障害理解授業やボランティア養成講座を実施していきます。（比内支援学校かづの校 教諭 長崎 尚嗣）



目が見えない状態の疑似体験

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介します。

小・中学校における特別支援教育の充実に向けて 特別支援教育支援員配置校研修 ～羽後町立羽後中学校～

羽後町立羽後中学校では、特別支援教育コーディネーターが中心となり、学級担任や教科担当から要望等を聞いて特別支援教育支援員のスケジュールの調整や支援方法の確認などを行っています。週末に支援日誌を回覧して情報共有したり、給食の際に打合せの時間を設けたりしています。

学級担任による提示授業、2年A組の外国語（英語）の実践を紹介します。支援対象の生徒は、対人関係でつまずくと感情のコントロールが難しくなるBさんです。Bさんは、「特別扱いをしないでほしい」という願いをもっています。その気持ちを尊重し、授業者と支援員の間では、「教室全体の様子を見ながら、さりげなくBさんに近付いて支援する」と打合せをして授業に臨んでいました。

○授業の工夫

- ・授業への見通しがもてるように、黒板の左側に学習内容を板書する。
- ・活動の切り替え場面で、全員が活動を止め教師に注目できるよう、言葉掛けを統一し、分かりやすい表現で伝えている。
- ・単元全体への見通しがもてるように、単元構成をパターン化し、新出の文法を学ぶ時間と教科書の内容を読み取る時間に分けている。
- ・集中力が続くように、一つ一つの活動を短く設定している。

○Bさんへの配慮

- ・感情の変化等に対応できるように、座席を教師の近くに配置して、つまずきの未然防止を図っている。（本人も安心して学習できる座席となっている。）
- ・会話表現に注目できるように、本人の目の前で、全体へのデモンストレーションをやって見せる。
- ・「周囲の役に立ちたい」という気持ちに寄り添い、プリント配付等の役割を与える。

○支援員のBさんへの対応

- ・教師の指示等を理解し活動できるようであれば、見守る。
- ・会話表現の際の受け答えやグループ活動に移る際など、どうしたらよいか分からないそうなときに、友達との間に入って仲介し、やることを確認する。

○Bさんの様子

- ・授業の流れに沿って落ち着いて学習していた。グループ活動では、仲介に入った支援員の説明を聞いて見通しをもち、友達との活動に取り組むことができた。
- ・写真などの視覚的な教材が提示されると、より学習に集中できた。

授業者は英語で話し掛ける際に、生徒の理解の様子を見取り、話すスピードを調整して繰り返し話したり、分かりやすい表現に直して内容を伝えたりしていました。支援員は、教室の後方からBさんの様子を見守り、授業者の指示や生徒たちの集中力を妨げないタイミングで、授業者の動線と重ならないように動いていました。また、Bさんを含む多くの生徒にとって、「授業の工夫」は有効でした。これらの取組が授業のテンポをつくり、Bさんや他の生徒たちの学習意欲や集中力の持続につながっているように思いました。全員が学びやすい環境を整えた授業であると同時に、Bさんへの配慮とのバランスが取れていると感じた好実践でした。

（南教育事務所雄勝出張所 指導主事 伊藤 優子）

おめでとうございます

第22回環境美化教育優良校等表彰

文部科学大臣賞 比内支援学校たかのす校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する公益社団法人食品容器環境美化協会から、環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域の環境美化に大きく寄与しているとして、本県から比内支援学校たかのす校が、最優秀校として文部科学大臣賞を受賞しました。

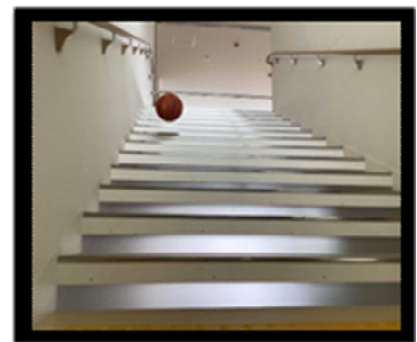
(令和3年度は、全国で最優秀校4校、優秀校6校、優良校25校の計35校が受賞)

第28回全国特別支援学校文化祭

全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞

比内支援学校 高等部3年 M・S

第28回全国特別支援学校文化祭の写真部門に出展された作品が全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞を受賞しました。この作品は、令和3年度秋田県特別支援学校みんなの写真展で最優秀賞を受賞した作品です。



作品名「無重力」

「障害者の生涯学習活動」に係る文部科学大臣表彰

潟上天王つくし苑

地域の公民館等を活用した生涯学習講座を継続している「潟上天王つくし苑」が、令和3年度「障害者の生涯学習活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞されました。特に高校生ボランティアの参加により、障害の有無を越えた同世代交流が行われていることが高く評価されたそうです。

令和4年1月20日に教育庁ホールで報告会があり、4名の方が報告に来てくださいました。



令和3年度文部科学大臣教育者表彰

文部科学省では学校教育に関し、特に顕著な功績のあった方を表彰しています。この度、長年の特別支援教育への御功績により大曲支援学校 小林 司 校長が、令和3年度文部科学大臣教育者表彰を受賞されました。

